

【腹診について②】

虚実

- ・虚の証：ややくぼんで、張り・艶・弾力が無い。
 - ・実の証
 - ①旺気実：皮膚が滑らか、張りが有る、やや盛り上がっている。
 - ②邪氣実：表面は虚。軽く按圧すると深部に硬結を触れ、痛みを伴う。
(按じて牢)
- ※「牢」=動かしがたい硬い反応の意味。堅牢、牢固。
- ・難病痼疾による虚の証（癩）：
「按じて牢」だが、痛みは少なく生氣の無い不快感を訴えるもの。
脾や腎の診所で時々あらわれる。

腹部の名称

- ・大腹：へそより上
- ・小腹：へそより下

正常な腹

- ・肋骨弓が鳩尾から竇門に向かってほぼ90度。
- ・虚里の動（心尖拍動）が緩やか。
- ・大腹・小腹ともに緩やかな膨らみ。

※肋骨弓が極端に狭く鋭角なものを狭胸といい 虚弱体質にみられる。

腹診の触り方

- ①仰臥位の患者の左側に立つ。
- ②左手の掌でへそを隠すように覆う。
- ③「②」の状態より、四指で肺の診所・母指で比較部位を押さえる。
- ④手を滑らせて「脾→肝→腎」と触診する。

※気の変化を目的とするため、強く按圧してはいけない。

